

大地震後の建物・施設被害情報配信

ERSは、国立研究開発法人・防災科学技術研究所の協力のもと、リアルタイム地震防災情報利用協議会が主催する「ハザード・リスク実験コンソーシアム」に参加しています。自治体の皆様には実験協力機関になって頂くことで情報受信環境が整います。

全国概観版リアルタイム地震被害推定

- 全国概観版
- ・滞留人口
- ・建物モデル
- ・増幅率

基礎データ
観測データ

SHIS
K-NET, KiK-net
震度計

250mメッシュ

人的被害
建物被害
震度曝露人口
地震動分布

・建物被害(全壊・全半壊)を推定
・死者、重傷者、避難者等を推定

情報提供

地震動分布、建物被害、人的被害の推定情報を提供

被害推定情報 NetCDF

WMS配信



250mメッシュ単位の情報：建物被害や人的被害予測はメッシュ内全体でのパーセンテージ情報

実験参加機関

ERS
Engineering & Risk Services

個別建物特性モデル

現地計測キャリブレーション

現地地盤特性モデル

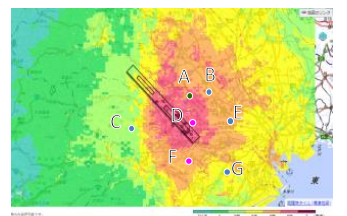
メッシュ単位の地震波情報を対象敷地の地盤情報でピンポイント化。事前に解析した建物特性、キャリブレーションと合わせ、個別建物の状況を推定。

実験協力機関

クライアント
配信情報イメージ

施設名称	推定震度	点検要否
A	6強	要
B	6弱	否
C	5弱	否
D	7	緊急
E	6弱	要
F	6弱	要
G	5強	否

当面：メールによる文字情報配信



将来：地図情報を活用した配信

大地震の発生から数十分以内を目途に、メッシュ単位の地震動分布とマスレベルの被害情報が発信されます。次にあらかじめお客様の各建物の立地と建物情報をお預かりしたERSから、敷地レベルにピンポイント化した震度と建物モデルを用いて、個別の建物の被害状況や点検要否の推定結果をお届けします。

